

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【片柳中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて
(3月)

年度末評価
(2月)

反映

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎的・基本的な知識・技能を問う問題にはある程度正答できるが、意味を深く理解はしておらず、問われ方が変わると正答率が低い。 <指導上の課題> ・基礎的知識や技能を、汎用的な概念として理解できるようにするための問題が十分に設定できていない。	⇒ ・朝学習(数学)や、各教科での単元末テストを充実させる【単元ごとに実施】 ・スタディサプリ等の活用を通して、家庭学習の習慣づけや、自由進度学習や個別最適な学びができるようにする【適宜】 ・基礎的・基本的な知識・技能を、汎用的に生かせるような活用の場を意識した問題を含めた授業を実施する【各単元ごと】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・文章を読み取り理解する力はあるが、正しい用語を用いて説明・表現する力に課題がある。 <指導上の課題> ・与えられた条件や情報を、意図に沿って活用したり表現したりする活動が少ない。	⇒ ・教科等横断的な授業を通して、文章や資料、データ等を要約したり、物事を多面的に思考したりする学習活動を充実させる【各教科ごとに一回以上実施】 ・生徒どうして話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、表現・説明する学習活動の充実させる【各単元ごと】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月～5月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では「語彙の意味」に関する理解が定着しており、全国平均を上回った。数学では「関数」の領域において、グラフから情報を読み取る力が育っている。一方、数学全体では基本語句の理解が不十分である。特に「図形」の領域では空間認識や図形の性質に関する理解が弱く、すべての問題で全国平均を下回った。基礎概念の定着と、語句を理解して使うことを意識した指導が求められる。
思考・判断・表現	国語・数学ともに、思考・判断・表現の平均正答率において全国平均を下回った。特に国語の「書くこと」では、目的に応じた構成や根拠の明確にすること、また相手意識をもった表現に課題がある。記述式の問題では、自分の考えを分かりやすく伝える力が弱く、数学でも自分の考えの過程を言語化して説明する力に課題が見られる。全教科において、書く活動を通じて論理的思考力と表現力を育成する必要がある。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習(数学)や単元末テストを継続的に実施できた。また、スタディサプリ等のICT教材を活用し、家庭学習の習慣づけや個別最適な学びの機会も提供できている。知識・技能の活用を意識した問題を取り入れた、汎用的な力の育成を図る授業の実施はさらなる充実が必要である。	変更なし
思考・判断・表現	B	教科横断的な授業を通して、資料やデータの要約、多面的な思考を促す活動は一部実施できている。しかし、生徒同士の話し合いや意見交換等の活動において、自分の考えを広げたり深めたりすることや、物事の理由や自分の意見を相手に伝わりやすく文章で書くことに課題がみられる。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	